



今を生きる、 その一步に後悔なし

未来は誰にも分からないからこそ、
今この瞬間の最善を選び、
胸を張って一步を踏み出そう。

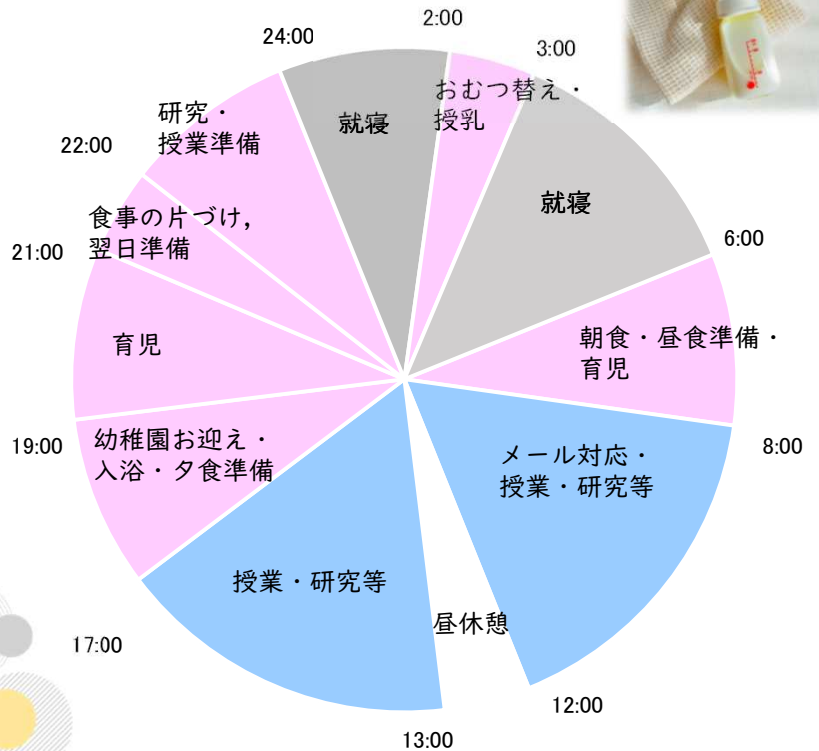
くもい げんどう
雲居 玄道 さん

長岡技術科学大学
工学部 情報・経営システム系
データサイエンス講座 講師

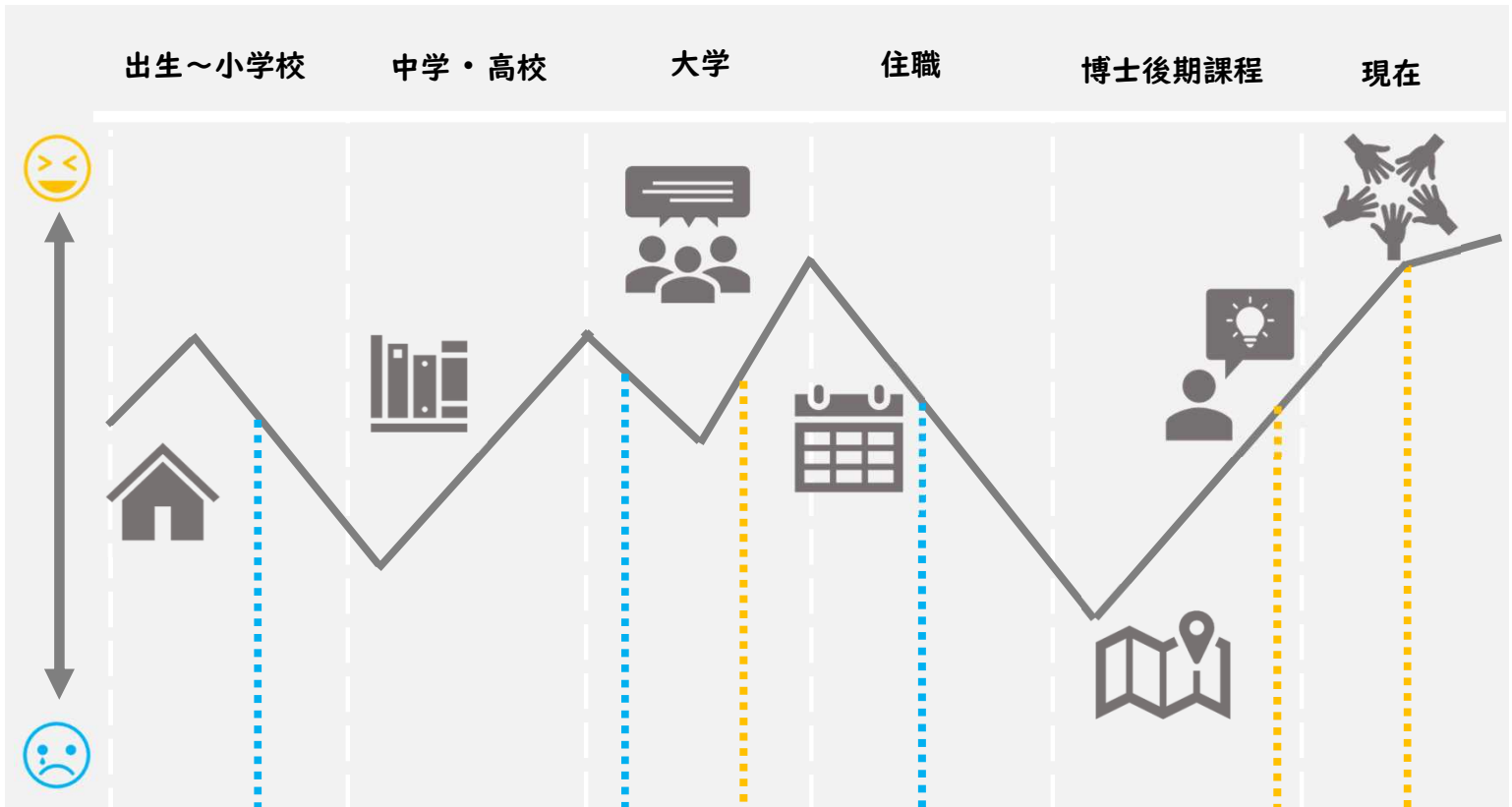
✓ 雲居さんの日々のルーティン

毎日の料理は、私にとって心躍る創造のひとつ。新鮮な食材と向き合い、包丁を握る時間は、何よりも贅沢な息抜きです。

3歳の娘が「おいしい！」と笑顔で完食してくれる瞬間こそが、最高の幸せ。食を通じて、大切な人たちに活力と喜びを届けられることが、私の誇りです。



✓雲居さん “私のライフチャート”



	出生～小学校	中学・高校	大学	就職	博士後期課程	現在
出来事	神奈川県横浜市の寺院に生まれる	寺を継ぐことを念頭に経営システム工学科に入学	情報数理応用研究室に配属が決まる	就職を継職する	博士号を取得する	双子が生まれ5人家族になる
影響を受けた出来事/出会い	寺院のため、常に他人が出入りする環境	経営における統計学・情報工学の応用を知る	平澤茂一教授の元で研究のイロハを学ぶ	寺院活動を通じて多くの人々と接する	計算機実験を間違えた結果、博士論文につながる知見を得る	双子育児の大変さに気づく
成功体験	大人との付き合いがうまくなる	経営システム工学の楽しさを知る	社会課題を研究を通じて解決する楽しさを知る	少年教化活動に力を入れ、寺に活気が戻る	石の上にも三年、初志貫徹し学位の取得が叶った	長女が赤ちゃん返りを乗り越えて成長する
失敗体験	同級生の行動原理が理解できず馴染めない	寺を継ぐ未来が決まっていることに閉塞感を覚える	寺を継ぐという初心を忘れる	研究活動を継続し、寺院活動への興味が薄れる	初志貫徹した結果、研究者の先輩方に学位がとれるのか心配をかけた	育児休業中の変な大変さを見誤っていた

✓雲居さんに いろいろお聞きしました！

今のこの仕事(職業)を選んだきっかけは？



研究者としての道を歩みたいという強い思いがあったからです。決められたルールの上を進むような仕事にはすぐに飽きてしまう性格なので、自分の信念に基づいて自由に研究活動ができる環境を求めています。さらに、学生を指導しながら研究仲間を育て、共に成長していける環境も魅力的でした。これらの要素が重なり、大学教員という道を選択しました。

この仕事を続けていてよかったと思うところはありますか？

私は経営システム工学の専門知識を活かし、企業の経営課題を解決することに強い関心を持っています。そして実際に、多くの企業との共同研究を通じて現場の課題に直接触れる機会を得られ、その思いを実現できつつあります。さらに、研究室の第1期生から博士課程への進学希望者が出てきたことは、研究者として大きな喜びとなっています。

学生時代の自分を振り返って



学生時代を振り返ると、「最小限の努力で最大限の結果を得る」という信念のもと、卒業要件を満たすための時間対効果(タイパ)を重視していました。そのために、規則を細かく読み込み、取り得る選択肢を慎重に検討するという姿勢でした。実は、このタイパ重視の考え方は、現在に至るまであまり変わっていないように感じます。

ワークライフバランスについて教えてください

双子が生まれるまでは、家には極力仕事を持ち帰らないというスタンスを心がけてきました。現在は少し崩れつつありますが、食事は自分の満足度のためにも手を抜かないようにしています。また、土日は家族との時間を大切にし、優先的に確保するようにしています。



社会に出る前の皆さんへメッセージをお願いします

時間対効果(タイパ)を重視したいのなら、まずは「型」となる規則をしっかりと理解することから始めましょう。なぜなら、規則を知らずに型を外れた行動をとることは、ただの「型外れ」として疎まれてしまうだけだからです。大切なのは、しっかりと型を理解したうえで、意図を持って「型破り」になることです。型を知らない型破りと、型を知った上での型破りでは、周りからの評価が大きく変わってきます。

✓雲居さんの 育休体験



育休はいつから、どれくらい取得しましたか？

双子が生まれた
5月中旬から
9月上旬までの
約4か月取得
しました。



取得の準備や 周りの反応は？



育休取得にあたって、同じ系（部署）の方々がとても協力的だったため、取得自体への不安はありませんでした。しかし、男性教員による数か月の育休取得は前例がなく、いくつかの課題に直面しました。特に、学内制度の運用面が十分に整備されていなかったことや、育休制度自体が年々変化している中での現行制度への理解不足により、取得準備には苦労がありました。そんな中、男女共同参画推進室の方々の手厚いサポートのおかげで、無事に育休を取得することができました。

育休中はどうでしたか？



育休中の経験は、当初の想定とかなり異なるものでした。第1子の育児経験から、育休中にも学生指導などの臨時的な勤務ができるだろうと考えていました。しかし、双子育児の大変さを全く理解していなかったため、その見通しは甘かったことを痛感しました。特に退院直後は、夫婦で24時間体制の対応が必要となり、育休を取得していなければ到底乗り切れなかったと思います。幸い、育休の終盤には生活にも少し落ち着きが出てきました。

これから育休取得したい人にメッセージをお願いします

近年、「男性の育休取得推進」という言葉をよく耳にしますが、もう「推進」や「できれば取得」という時代は終わりつつあります。育休は、当たり前を取得するものとして考えていきましょう。また、育休中は「研究も進めよう」という意気込みは控えめに、貴重な育児の時間を存分に楽しんでいただければと思います。

